

平成30年度博士前期課程（外国人留学生選抜）問題 目次

		ページ
日本語試験		2
<b>専門試験A・B</b>		ページ
文化形態論	哲学哲学史	—
	現代思想文化学	3
	臨床哲学	—
	中国哲学	—
	インド学・仏教学	—
	日本学	—
	日本史学	4～5
	東洋史学	6～7
	西洋史学	—
	考古学	—
	人文地理学	—
文化表現論	日本文学	8～11
	比較文学	—
	中国文学	12～13
	英米文学	—
	ドイツ文学	—
	フランス文学	—
	国語学	—
	日本語学	14～15
	英語学	16
	美学	17
	文芸学	—
	音楽学	18～19
	演劇学	20～22
	日本・東洋美術史	—
	西洋美術史	23

平成30(2018)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題

日本語試験

[問題用紙は3枚あります。]

次の文章を読んで、後の問いに日本語で答えなさい。答えはすべて解答用紙に書きなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。  
家入葉子(2005)『文科系ストレイシープのための研生活ガイド』ひつじ書房、  
59頁下5行～62頁17行

問1 (1)～(5)の漢字に読み仮名を付けなさい。

(1) 働めている (2) 手配 (3) 利便性 (4) 閲覧 (5) 達人

問2 本文中にある次のことばを、文脈に即したわかりやすいことばに言い換えなさい。

(ア) 惜しみなく (イ) 態勢を整え(る) (ウ) 高望みを(する)

(エ) 風土を作り上げ(る) (オ) 思いのままに

問3 下線部(B)「図書館を自分の蔵書の延長線上に位置づける」ということについて、たとえばどのようなことが考えられるか、考えられる例を述べなさい。

問4 文章の冒頭の下線部(A)「図書館を自分の仕事場の一部として利用する」ということと「本は自分で買う」ということについて、あなたの考えるところを800字程度で自由に論じなさい。

以上

平成30(2018)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 現代思想文化学専門分野 専門試験  
[ 問題用紙は1枚です。]

注意 ①解答はすべて所定の解答用紙に記入すること  
②問題用紙は持ち帰ること

I 次の英文全体を、日本語に訳しなさい。

The philosopher once more began to speak: "Be careful to remember, my friend," said he, "there are two things you must not confuse. A man must learn a great deal that he may live and take part in the struggle for existence; but everything that he as an individual learns and does with this end in view has nothing whatever to do with culture. This latter only takes its beginning in a sphere that lies far above the world of necessity, indigence, and struggle for existence. The question now is to what extent a man values his ego in comparison with other egos, how much of his strength he uses up in the endeavour to earn his living. Many a one, by stoically confining his needs within a narrow compass, will shortly and easily reach the sphere in which he may forget, and, as it were, shake off his ego, so that he can enjoy perpetual youth in a solar system of timeless and impersonal things. Another widens the scope and needs of his ego as much as possible, and builds the mausoleum of this ego in vast proportions, as if he were prepared to fight and conquer that terrible adversary, Time."

mausoleum: 霊廟

〈Friedrich Nietzsche, *Future of Our Educational Institutions*, 1872,  
<http://la.utexas.edu/users/hcleaver/330T/350kPEENietzscheFutureTableCut.pdf>〉

II 以下の語句の中から、2項目を選択し、その番号を記した上で3行程度で説明を  
しなさい。

- 1 善のアイデア
- 2 方法的懷疑
- 3 定言命法
- 4 パターナリズム
- 5 ジェンダー

III 哲学と教育の関係について論じなさい。

平成三十（二〇一八）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 日本史学専門分野 専門試験（受験番号1・2）

【注意】問題用紙は全部で二枚あります。解答用紙は横長に使い、縦書きで解答して下さい。

(I) 次の問い(1)・(2)のうちいずれか一つを選び、答えなさい。

(1) 自由民権運動について述べなさい。

(2) 一九二〇年代・三〇年代の日中関係について述べなさい。

(II) 次の歴史的名辭(1)～(4)のうち三つを選び、説明しなさい。

(1) 遣唐使      (2) 承久の乱      (3) 寛政の改革      (4) 台湾総督府

(問題文は次に続く)

(Ⅲ) 次の史料は、一九〇四年二月五日付伊藤博文宛桂太郎書簡に同封された「別紙」の一部である。この史料を読んで、①～④の問いに答えなさい。なお、文字は一部改めたところがある。

若し夫れ講和の条件に至りては、前にも述べたる如く戦局の進捗如何によりて伸縮すべきこと勿論なりと雖、旅順の陥落及遼陽の大決戦を以て一段落とし、媾和問題を研究するに於ては我主要なる要求条件は大凡そ左の如くなるべし。即ち、<sup>a</sup>韓国に關しては、露國をして我完全なる自由行動権を確任し、并に我利益を妨げざることを明約せしめ、以て将来再び韓国問題に付露國と紛擾を醸すべき原因を全然排除する事。滿洲に關しては、<sup>b</sup>帝國宣言の主義に悖らざる範圍内に於て、我目的を貫徹せざるべからず。蓋し韓国に關しては列國中我自由行動に対し異議を挟むもの之なかるべしと雖も、滿洲に關しては帝國は累次其領土保全と各國商工業上機會均等の主義を維持することを列國に宣言し、特に清國に対しては開戦の當時に於て同國を犠牲とし領土獲得を行ふの意思なきことを聲明したる故に、之に抵觸せざる範圍に於て我目的を達せざるべからず。而して滿洲に關しては、我要求は自ら露國に対するものと清國に対するものとの二箇に分たれざるを得ず。即ち露國に対しては滿洲に於ける其勢力を排除し、同國をして再び韓国北境を脅かすことなからしめざるべからず。而して之か為めには滿洲に於ける同國軍隊を撤退し、併せて占領地行政を清國に還附せしむべく、又滿洲横貫鐵道即ち具加爾地方より浦塩斯德に至る鐵道は、單に商業の目的に使用すべき条件の下に依然露國をして之を所有せしむべきも、哈爾濱旅順間の鐵道并に遼東半島租借地は之を我邦に讓与せしめんこと、極めて緊要なりとす。次に、清國に対しては我か宣言を履み、露國が従来不法占領を継続したる地域にして我か占領に歸したる部分は之を清國に交附すべきも、將來に向て滿洲の保全を確實ならしむる為め左の条件を要求せざるべからず。即ち、第一、滿洲を他國に割讓せざる旨を約せしむること、第二、滿洲の秩序を完全に維持し、行政、兵制等の改革を実行せしむること、第三、哈爾濱旅順間の鐵道及遼東租借地の讓与を承認せしむること、第四、鴨綠江營口間鐵道敷設権を讓与せしむること、第五、<sup>c</sup>列國通商の為めに滿洲に於ける數多の市邑を開き、商工業上機會均等の主義を維持せしむること、之れなり。

- ① 傍線 a に關連して、日露戦争の開戦からこの書簡が出されるまでの間に、日韓間で結ばれた条約について知るところを述べなさい。
- ② 傍線 b について、これが指している内容を史料の記述に即して述べなさい。
- ③ 史料中の「 」で括った部分について、その内容を史料に即してまとめなさい。
- ④ 傍線 c に関わつて、日露戦争後に結ばれた日清間の協定で開市された都市名を二つ挙げなさい。

平成30(2018)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 東洋史学 専門分野 専門試験

[問題用紙は2枚です。I・II・III・IVについて、それぞれ別の解答用紙を使用してください。]

## I 英語問題

次の文章を日本語に訳しなさい。

◆問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

【William Guanglin Liu, "The making of a fiscal state in Song China, 960-1279," *The Economic History Review* 68.1, 2015, p. 48, l. 1 - p. 49, l. 4】

## II 論述問題

次の3問より1問を選択し、日本語で答えなさい。

1. ユーラシア東部において仏教が果たした歴史的役割について述べなさい。
2. 中国史の一つの時代を選びなさい。そして中国を、遊牧世界・農耕世界・海域世界や森と山の世界など複数の世界が重なり合って相互作用を及ぼす中で成立した社会と考えて、その時代の状況を説明しなさい。
3. アジアで生産された貿易商品をひとつ選んで、その生産・貿易や社会・国家に与えた影響について述べなさい。

### Ⅲ 漢文問題

次の漢文は、清代の趙翼が著述した『廿二史劄記』卷二十一「五代史」の「歐史書法謹嚴」の一部を抜粋したものである。これを読んで、下の問いに答えなさい。なお、五代十国期の五代とは、後梁・後唐・後晉・後漢・後周の五王朝を指す。また、設問との関係で標点を省略した箇所がある。

不閱舊唐書，不知新唐書之綜核也。不閱薛史，不知歐史之簡嚴也。①歐史不惟文筆潔淨，直追史記，而以春秋書法，寓褒貶於紀傳之中，則雖史記亦不及也。

其用兵之名有四。②兩相攻曰攻，如梁紀孫儒攻楊行密於揚州，是也。以大加小曰伐，如梁紀遣劉知俊伐岐，是也。有罪曰討，如唐紀命李嗣源討趙在禮，是也。天子自往曰征，如周紀東征慕容彥超，是也。③攻戰得地之名有二易得曰取如張全義取河陽是也難得曰克如龐師古克徐州是也。以身歸曰降，如馮霸殺潞將李克恭來降，是也。以地歸曰附，④如劉知俊叛附於岐，是也。（中略）凡此皆先立一例，而各以事從之，褒貶自見。其他書法，亦各有用意之處。（後略）

#### 【語註】

謹嚴：精細严密，无懈可击（「无懈可击」とは「一分のすきもない」という意味）

綜核：謂綜合起來加以考核

薛史：薛居正が監修した『旧五代史』

歐史：歐陽脩が撰した『新五代史』

簡嚴：謂文辭簡朴而严谨

潔淨：簡潔

孫儒、楊行密、劉知俊、李嗣源、趙在禮、慕容彥超（慕容は複姓）、張全義、龐師古、馮霸、李克恭：いずれも人名である

岐：五代十国における国のひとつ 揚州、河陽、徐州：いずれも地名である

問1 下線部①を和訳しなさい。

問2 下線部②を和訳し、さらに歐陽脩が用いている「攻」の字の意味を説明しなさい。

問3 下線部③の漢字をすべて引用し、標点（「、」「，」「。」）をできるだけ多く打ちなさい。

問4 下線部④について、劉知俊が岐と後梁とに対してどのような対応をとったかが分かるように和訳しなさい。

### Ⅳ 基礎事項問題

次の(a)～(d)の事項について知るところを、それぞれ2行程度で簡潔に述べなさい。

(a)ネルー (Jawaharlal Nehru) (b) イマーム (imām)

(c) 吐蕃 (d) 続資治通鑑長編

平成三〇（二〇一八）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 日本文学専門分野 専門試験 「問題用紙は4枚あります。」

〔一〕 次の文章は新井白石『折たく柴の記』の一部で、亡き父について思い出が記されている箇所である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

身静なる時には、つねにおはします所を淨く掃ひて、壁上に古画をかけて、花瓶には、春秋の花を、すこしくさはさみて、それに対して、黙坐して目を消し給ひ、又みづから絵かき給ふ事などもありき。それも色を設くる事などはこのみ給はず。身の病し給ふ時より外は、人をめしてつかひ給ふといふ事なく、①なに事も手づからみづからのみなし給ひたりき。朝夕の物をめす事も、飯は二椀に過ず。「手して椀をさぐるに、その軽重によりて、飯の多きすくなきはしられぬれば、其余の物は、飯の多少によりて、多くもすくなくもくらひて、常に我腹にみつる分量をすくすべからず。口にかなふ物也とも、一色をのみ多く食ひぬれば、かならずそのために傷らるゝ事あり。なに物をも撰はずして皆くすこしづゝ食ふ時は、たがひに相制する所あるにや、食のために傷らるゝ事はすくなしと覚ゆる也」と仰られき。②よのつねには、こなたよりまゐらす物をめして、「なに物をまゐらせよ」とのたまひし事はあらず。たゞ「四時の新味をば、その出来りし初に、なに物に限らずまゐらせよ」と仰られて、③家人と共にきこしめしけり。酒はわづかも喉に下し給へば、大きに酔給ひしかば、Aたゞ盃を把りて、飲を交給ふのみなりき。茶をばこのみてめしけり。

問一 傍線部①②③を現代語訳しなさい。

問二 父がどのような絵を好んで描いたとされているか記しなさい。

問三 傍線部Aはどのようなことを述べているか説明しなさい。

問四 文章全体で、父がどのような人物として描かれているか説明しなさい。

問五 『折たく柴の記』が誰のために書かれた書物であると考えられるか、またそのように考えられる理由を述べなさい。

(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること)

(一枚目)



四 以下の文章は、時枝誠記『古典解釈のための日本文法』(一九五〇年)の「連体形の用法」の一部で、單元六まで示されたうちの單元三までである(文言・表記を改めたり、中略した部分がある)。これを読んで、後の問いに答えなさい。

【單元一】のこりなく散るぞめでたき桜花ありて世の中はてのうければ(古今集七一)  
「めでたき」は、形容詞の連体形で、普通の接続関係ならば、次に来る体言に接続し、これを修飾する修飾語の位置に立つものである。ところがこの場合は、係助詞「ぞ」に対する呼応として、連体形で切れなければならないから、「めでたき」は、ここで切れるものとして、文の意味を解釈して行かなければならないのである。「ぞ」に対する結が連体形で、しかもそこで文が終止するといふことは、一般の散文では、何等問題にすぎることではないのであるが、和歌では韻律の関係上、ややもすれば、「のこりなく散るぞめでたき桜花」までを一纏りとするやうな誤解に陥り易い。

心あてにそれかとぞ見る。白露の光添へたる夕顔の花(夕顔一ノ六四)  
右と同じやうにして、「見る白露の」と続けず、「それかとぞ見る」で切らなければならないのである。「添へたる」は、上に係助詞を伴はない場合であるから、そこで切らずに、下に続けて行かなければならない。

(中略)

【單元二】口語の場合に、

- 一 流れる水 高い山
- 二 滝が落ちる音 色の赤い花

の例について、一の「流れる」「高い」は、それぞれ連体形が、「水」「山」の連体修飾語として用ゐられ、それらの属性概念を表現するのであるが、二の「落ちる」「赤い」は、ともに連体形でありながら、それらが直に「音」「花」の修飾語として用ゐられてゐるのではなく、主語である「滝」「色」の述語として用ゐられてゐる。そして、「滝が落ちる」「色の赤い」が、全体として、「音」「花」の修飾語となるのである。従つて、連体形の中には、それが直に下の語の修飾語になる場合と、上の主語或は修飾語の述語として用ゐられ、それらの合体したものが全体として下の語の修飾語になる場合とがあることに注意しなければならない。

優婆塞が行ふ道をしるべにて、来む世も深き契り違ふな(夕顔一ノ七三)  
右の例には、「行ふ」「む(来む)」「深き」の三の連体形が用ゐられてゐるが、助動詞の「む」及び形容詞の「深き」は、直に下の「世」及び「契」にかかる連体修飾語であるが、「行ふ」は、「道」といふ語の属性概念を表はす連体修飾語ではなく、「優婆塞が行ふ」全体が、「道」の修飾語となつてゐるものとして理解しなければならない。後者の場合が特に重要である。

(中略)

【單元三】連体形が述語として用ゐられてゐる場合、前例のやうに、主語が文中に表現されてゐる場合は問題がないが、国語の特性として、主語が省略される場合が多いので、そのやうな場合には、主語が想定されるかどうかを検討して見る必要がある。主語が想定される場合は、その主語を補つて、前項の原則に従つて解釈する。

白妙の衣うつ砵の音も、かすかにこなたかなた聞き渡され(夕顔一ノ七二)  
右の例で、連体形「うつ」は、想定される主語「町の人々」の述語であつて「町の人々が白妙の衣をうつ」が全体として「砵」の修飾語となる。

問一 傍線部①で示されるような日本語の文法現象を、一般に何と呼ぶのかを答えて、更にその現象について知るところを述べなさい。

問二 次に掲げるアイオの例文中の傍線を付した部分は、本文中で示された連体形の三種類のうち、いずれのものであると考えられるか。アイオそれぞれについて、「單元一・單元二・單元三」の何れかで答えなさい。

- ア 雲の上も涙にくるる秋の月いかですむらむ浅茅生の宿
- イ 碁打ちはてつるにやあらむ、うちそよめきて、人々あかるけはひすなり
- ウ 花の散ることやわびしき春がすみたつたの山の鶯のこゑ
- エ 花の散ることやわびしき春がすみたつたの山の鶯のこゑ
- オ 峯高く、深き巖の中にぞひじり入り居たりける

問三 現代日本語においては、〈連体形——名詞等の修飾に使われる形〉と〈終止形——文の終止に使う形〉と同一形になっているものが多い。そのことについて、以下の問いに答えなさい。  
(一) 古典語にあつたその区別が、現代語に到る過程で無くなつた経緯について知るところを述べなさい。  
(二) 連体形と終止形が同じであることによる不便を、本文に見える古典語の例を参考にして、説明しなさい。  
(三) 現代語において、連体形と終止形が異なる形になっているものもあるが、それを挙げなさい。

(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること)

(二枚目)

三 次の文章は、梅崎春生の小説『桜島』の冒頭です。これを読んで後の問いに答えなさい。

《出典は『桜島』(大地書房、一九四八年三月)三〇七頁》

七月初、坊津にゐた。往昔、遺唐使が船出をしたところである。その小さな美しい港を見下す時で、基地隊の基地通信に當つてゐた。私は、暗號員であつた。毎日、崖を滑り降りて魚釣りに行つたり、山に楊梅を取りに行つたり、朝夕峠を通る坊津郵便局の女事務員と仲良くなつたり、よそめにはのんびりと日を過した。電報は少なかつた。日に一通か二通。無い時もある。此のやうな生活しながらも、目に見えぬ何物かが次第に輪を狭めて身體を緊めつけて来るのを、私は痛いほど感じ始めた。歯ぎしりするやうな氣持で、私は連日遊び呆けた。日に一度は必ず、米軍の飛行機が鋭い音を響かせながら、峠の上を翔つた。ふり仰ぐと、初夏の光を吸ふた翼のいるが、ナイフのやうに不氣味に光つた。

或る朝、一通の電報が来た。

海軍暗號書、「勇」を取り出して、私が翻譯した。

「村上兵曹櫻島ニ轉勤ニ付至急谷山本部ニ歸投サレ度」

午後、交替の田上兵長が到着した。

その夜、私はアルコールに水を割つて、ひとり痛飲した。泥酔して峠の道を踏んだ時、よろめいて一間ほど崖を滑り落ちた。喉が切れて、血が随分流れた。陸地に仰向きになつたまま、凄ましい程冷えた月のいろを見た。酔つて断れ断れになつた意識の中で、私は必死になつて荒涼たる何物かを追つかけてゐた。

翌朝、醫務室で喉を簡単に治療して貰ひ、そして峠を出發した。徒歩で枕崎に出るのである。生涯再びは見る事もない此の坊津の風景は、おそろしいほど新鮮であつた。私は何處も振り返り、その度の展望に目を見張つた。何故此のやうに風景が生き生きしてゐるのであらう。胸を噛むにがいものを感じながら、私は思つた。此の基地でゐるいろいろ考へ、また感じたことのうちで、此の思ひだけが眞實ではないのか。たとひその中に、訣別といふ感傷が私の肉眼を多分に歪めてゐたとしても――

枕崎から汽車に乗つて、或る小さな町についた。そこでバスに乗り換へるのである。しかし日に一回のそのバスが、もはや通過したあとであつた。

軍隊のトラックを呼び止めて、それに便乗する手は残つてゐた。しかしそれも物倦く、街の中央にある旅館に入つて行つた。そして飯をたべた。縁側に立つて、夕方の空のいろを眺めてゐると、通りがかつた若い海軍士官が私に聲かけて来た。私は、私の旅行の用向きを答へた。それから此の士官の部屋に行き、煎豆を噛みながら、暫く雑談をした。

やはり坊津の山の、上にある挺身監視隊長、谷中尉と言つた。背が低い、がつしりした、目の大きい男である。二十三四歳に見えた。先日、博多が空襲にあつた際、博多武官府にゐると言ふ。その時の話をした。博多は、私の古里であり、博多にゐる私の知己や友人のことを思ひ、心が痛んだ。

「美しく死ぬ、美しく死にたい、これは感傷に過ぎんね」

② 谷中尉は、煎豆の殻をはき出しながら、じろりと私の顔を眺め、さう言つた。

日が暮れた。そして一泊すること、心をきめた。遊ばうと言ふので、宿屋を出て、驛の裏手にあると言ふ妓樓に出掛けて行つた。宿の婢に教へられた家は、暗い路の、生簾に囲まれた、妓樓らしくもないうらぶれた一軒屋である。前の庭の下を、煙突から赤い焰をはきながら、機關車がゆるゆる通る。ベツと次の粉が線路に散つたりした。星の見えない空には厚い雲の層が垂れてゐらしかつた。

妓が一人しか居なかつたのだ。そして、酒はなかつた。谷中尉の發議で、私が鏡をつくつた。此のやうな場所で女と寝るのも危しく、私は短い鏡を引きたいと願つた。しかし、私が長い鏡にあつた。谷中尉は、お茶を一杯飲んだだけで、では、とわちひながら立ち上つた。やや経つて、玄關から門までの石畳を踏んで出て行く谷中尉の靴の音がきこえて來た。暫くして、妓が部屋に來た。

妓には、右の耳が無かつた。

女と遊ぶ、このことが生涯の最後のことであることが、私にははつきり判つてゐた。櫻島に行けば、もはや外出は許されぬ。暇さへあれば眠らねばならぬやうな勤務が、私を待つてゐるのだ。私は窓に腰かけ、黙つて妓を眺めてゐた。女は顔の半面を絶えず私の視線から隠すやうにしながら、新しく茶をいれた。俄かに憤怒に似た故知らぬ激しい感傷が、鋭く私の胸をよぎつた。

「耳がなければ、横向きに寝るとき便利だね」

此のやうな言葉を、荒々しい口調で投げて見なくてしやうがなかつた。言はば、頭をかきむしるやうな絶望の氣持で——妓を侮辱したかつたのではない。此の言葉を口に出せば、言葉のひとつひとつが皆するどい劍のやうにはねかへつて、私の胸に突き刺つて來るにきまつてゐた。

③ 口に出さずとも、もはや私の胸は傷つてゐるのではないか。私は、私自身を侮辱したかつたのだ。生涯、女の暖い愛情も知らず、青春を荒廢させ難したまま、異土に死んで行かねばならぬ自身に對し、此のやうな侮辱がもつともよきはずいはないか。私は窓に腰かけたまま、じつと女の端麗な横顔に見入つてゐた。

問一 傍線部①のように「私」が感じるのはなぜか、くわしく説明しなさい。

問二 傍線部②には、「谷中尉」のどのような心情がうかがえるか、説明しなさい。

問三 傍線部③のように「私」が考えるのはなぜか、わかりやすく説明しなさい。

(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにする。)

(四枚目)

平成30(2018)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 中国文学専門分野 専門試験

[問題用紙は2枚あります]

I 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

丹稜楊素，英偉人也。其在州閭鄉黨有俠氣，不少假借人，然以禮義，不以財力稱長雄也。聞余欲盡書杜子美兩川夔峽諸詩，刻石藏蜀中好文喜事之家，素翁粲然向余，請從事焉。又欲作高屋廣楹庥此石，因請名焉，余名之曰大雅堂，而告之曰：

(a) 由杜子美以來，四百餘年，斯文委地，文章之士，隨世所能，傑出時輩，未有升子美之堂者，况室家之好耶。余嘗欲隨欣然會意處，箋以數語，終日汨沒世俗，初不暇給。(b) 雖然，子美詩妙處乃在無意於文。夫無意而意已至，非廣之以國風雅頌，深之以《離騷》《九歌》，安能咀嚼其意味，闖然入其門耶。故使後生輩自求之，則得之深矣。使後之登大雅堂者，能以余說而求之，則思過半矣。(c) 彼喜穿鑿者，棄其大旨，取其發興於所遇林泉人物草木魚蟲，以為物物皆有所託，如世間商度隱語者，則子美之詩委地矣。素翁可并刻此於大雅堂中，(d) 後生可畏，安知無渙然水釋於斯文者乎。

(黃庭堅「大雅堂記」より)

【注】丹稜——成都府路眉州の地名。 假借——寛容に接する。 箋以數語——注釈を試みたことをいう。 不暇給——暇がない。

- 問1 文中にあげられる楊素なる人物はどのようなことを行ったのか、簡潔に述べよ。
- 問2 下線部(a)を分かりやすく言葉を補って日本語訳せよ。なお、後半部の表現は『論語』先進篇の「由や、堂に升れり。未だ室に入らざるなり」を踏まえる。
- 問3 下線部(b)を分かりやすく言葉を補って日本語訳せよ。
- 問4 下線部(b)の「國風雅頌」「離騷九歌」について知るところを述べよ。
- 問5 下線部(c)を分かりやすく言葉を補って日本語訳せよ。
- 問6 下線部(d)を分かりやすく言葉を補って日本語訳せよ。
- 問7 文中に述べられる文学観の要点を簡潔にまとめよ。

Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

冷齋夜話云秦少游在處州夢中作長短句詞曰山路雨添花花動一山春色行到小溪深處有黃鸝千百飛雲當面化龍蛇夭矯挂空碧醉卧古藤陰下杳不知南北後南遷久之北歸逗留於藤州遂終於瘴江之上光華亭時方醉起以玉盃汲泉欲飲笑視之而化

(胡仔『荅溪漁隱叢話』より)

【注】秦少游——北宋の文人・秦觀（1049～1100）。南遷——秦觀が党議に連座して雷州等に流されたことをいう。

- 問1 文中にいう「長短句」とは〈好事近〉という詞を指し、『詞譜』はこの〈好事近〉を「四十五字。前後段、各四句・兩韻」と説明している。これに従って、文中の「長短句」を前・後段に分けて断句し、解答用紙に示せ。
- 問2 上の〈好事近〉の押韻について説明せよ。
- 問3 上の〈好事近〉をすべて日本語訳せよ。
- 問4 「笑視之而化」を分かりやすく言葉を補って日本語訳せよ。
- 問5 『冷齋夜話』が述べていることを要約せよ。

平成30(2018)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 日本語学専門分野 専門試験

[問題用紙は3枚あります。]

[1] 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。  
メイナード, 泉子.K. (1997)『談話分析の可能性』くろしお出版, pp.221-223, 12行目まで

- 問1 下線部(a)「言語が持つ社会的な機能はその社会の価値観を反映」とはどのようなことをいうのか、本文にある具体例を挙げながら説明しなさい。
- 問2 下線部(b)「このようなスタイルの差」とはどのようなものか、本文に即して説明しなさい。
- 問3 下線部(c)「確かにこの2つのスタイルは、話し手の性差によって選択されることが多いが、実際はコンテキストによって使い分けるように見られる。」について、あなた自身の考えを自由に述べなさい。

[2] 次の12項目のなかから5項目を選んで説明しなさい。

- (1) 上位語・下位語
- (2) 慣用句
- (3) 連濁
- (4) 非対格性
- (5) 最小対
- (6) 相補分布
- (7) 若者語の4分類
- (8) ドメイン
- (9) 半構造化インタビュー
- (10) マルチリンガリズム

(11) スタイルシフト

(12) 配偶者トーク

[3] あなたが今後研究しようとするテーマに関連するキーワードを5つ選び、それぞれについて説明しなさい。

以 上

平成30(2018)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 英語学専門分野 専門試験

[問題用紙は2枚あります。]

1. 次の英文(A),(B)の下線部を日本語にしてください。

(A)

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下の通りです。

Department of linguistics, The Ohio State University (2007) *Language files* 10<sup>th</sup> edition.  
Columbus: The Ohio State University Press. p.11, l. 22-1.32.

(B)

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下の通りです。

Steven Pinker (2000) *Words and Rules: The Ingredients of Language*. New York: Harper  
Perennial. p.128, l. 40-p.129, l. 20. 一部省略

2. 以下の専門用語のうちから5つを選び、分かりやすく日本語で説明してください。

- |  |                           |
|--|---------------------------|
| 1. Complementary distribution            | 6. Anaphora               |
| 2. Transitivity                          | 7. Token/type frequency   |
| 3. Presupposition                        | 8. Implicature            |
| 4. Arguments and adjuncts                | 9. Illocutionary act      |
| 5. (Progressive/regressive) assimilation | 10. Information structure |

3. 次の日本語文の下線部を英語にしてください。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下の通りです。

バトラー後藤裕子 (2015) 『英語学習は早いほど良いのか』東京: 岩波書店. 電子書籍版 位置 No.  
276-284.

4. 大学院入学後の研究計画について、英語で説明してください。語数制限はありません。



平成30(2018)年度

大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 美学・文芸学専門分野(美学受験分野) 筆記試験

[問題用紙は別紙を含め2枚あります。]

- 問1 自分の研究の問題関心を一言であらわすと、どんな語になりますか。その語について日本語で解説しなさい。たとえば「装飾」「色彩」「空間」「表現」「民藝」「茶庭」「演出」「身体」のような語がそれにあたります。問題関心をあらわす語ですので「アドルノ」といった固有名詞は避けてください。文章の長さは問いませんが、段落ごとに内容を整理して書くこと。(配点50点)
- 問2 以下の項目のうち1つを選択したうえで、それについて「美学的」に論じるとはどのようなことかについて日本語で論じなさい。文章の長さは問いませんが、段落ごとに内容を整理して書くこと。(配点50点)

日常生活    デザイン    イメージ    パフォーマンス

- 問3 別紙に掲げる英文を読んで、環境美学が論じようとする鑑賞の対象の性格について、日本語で解説しなさい。解答の長さは問いませんが、可能なかぎり分かりやすく論点を整理すること。(配点50点)

語句解説

immerse 浸す    ramification 副次的結果

impinge 影響をあたえる    engulfing 圧倒的

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Allen Carlson, *Aesthetics and the Environment: The appreciation of nature, art and architecture* (London and New York, 2000), p. xvii, l.4 – p. xviii, l.26.

平成30(2018)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 音楽学・演劇学専門分野 (音楽学受験分野) 専門試験

[問題用紙は2枚あります。]

問1 次の英文を日本語訳しなさい。[配点70点] [出典: Shuhei Hosokawa and Hideaki Matsuoka, "Vinyl Record Collecting as Material Practice: The Japanese Case", in William W. Kelly (ed.) *Fanning the Flames: Fans and Consumer Culture in Contemporary Japan*, State University of New York Press, 2004, p.151, ll.1-12.]

(問題文は著者の著作権等に配慮し、省略します。)

問2 以下の文章で述べられている事柄に対するあなたの見解を明らかにしながら、「音楽を論じること」についてのあなたの考えを述べなさい。〔配点 80 点〕〔出典：増田聡『聴衆をつくる—音楽批評の解体文法』2006 年、青土社、9 頁 1 行-10 頁 15 行〕

(問題文は著者の著作権等に配慮し、省略します。)

平成30(2018)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 音楽学・演劇学専門分野 (演劇学受験分野) 筆記試験

[問題用紙は3枚あります。]

問1 次の6つの項目全てについて、それぞれ100字程度で説明しなさい。

- |           |           |              |
|-----------|-----------|--------------|
| 1) 観世元雅   | 2) おやま    | 3) 散楽        |
| 4) 「第4の壁」 | 5) 『海の夫人』 | 6) スタニスラフスキイ |

問2 次の[1][2]のうち、どちらか1題を選択して解答しなさい。

[1] 別紙1の英文は、John K. Gillespie, 'Modern Japanese Theatre,' Siyuan Liu(ed.), *Routledge Handbook of Asian Theatre*, 2016, p.297, l.33 - p.298, l.8の文章です。この文章を読み、以下の設問に答えなさい。

- (1) 下線(A) the final key to releasing theatre from kabuki's grip とありますが、これはどういうことをさしますか。簡単に説明しなさい。
- (2) 下線(B) 作品 *Sawa-shi no futari musume* が挙げられていますが、この作品についてふれながら、Kishida Kunio について簡単に説明しなさい。

[2] 別紙2は、金井清光「補庵寺納帳の疑問点」(『能の研究』昭和44年、桜楓社、初出は『国語と国文学』昭和40年5月号)の冒頭です。この文章を読み、以下の設問に答えなさい。

- (1) ここで第一の疑問として挙げられている内容を、要約しなさい。
- (2) 金井氏の疑問に対する、自分の考えをできるだけ詳しく述べなさい。

問3 演劇における東洋と西洋の調和と衝突について、自由に論じなさい。

(別紙1)

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

John K. Gillespie, 'Modern Japanese Theatre,' Siyuan Liu(ed.), *Routledge Handbook of Asian Theatre*, 2016, p.297, l.33 - p.298, l.8

(別紙2)

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

金井清光「補巖寺納帳の疑問点」(『能の研究』昭和44年、桜楓社、807頁1行目～808頁12行目)

平成30(2018)年度

大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/外国人留学生選抜・春期試験)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 美術史学専門分野 (西洋美術史受験分野) 筆記試験

[問題用紙は別紙を含め2枚あります。]

問1 以下の10項目について簡潔に説明しなさい。

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1) ジョット     | 2) ディエゴ・ベラスケス |
| 3) アンフォルメル  | 4) アール・デコ     |
| 5) コルナード礼拝堂 | 6) パルテノン神殿    |
| 7) パノフスキー   | 8) パピエ・コレ     |
| 9) サヴォア邸    | 10) ロマン主義     |

問2 別紙の英文を日本語に直しなさい。(出典: Ivan Karp and Steven D. Lavine, eds., *Exhibiting Cultures: The Poetics and Politics of Museum Display*, Washington D.C.: Smithsonian Institution Press, 1991, pp.148, 1.1-149, 1.31.)

別紙は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は上記のとおりです。